

村長と語り合う タウンミーティング

20240113 対話内容

代表的な質問

若者の成長支援について。親族のことなのだが、母親が勤めており、子どもの宿題をおばあちゃんがみている。「公的な学習支援」をやってもらえないか。

小学校低学年レベルはできたとしても高学年、中学生レベルでは難しい。例えばコミセンを借りて、そこにボランティアが来て、子どもはそこに行って宿題を見てもらえる、ということが、中学生ぐらいまでできればよい。

村長からの回答

小学生の場合、学童クラブを使っていることが多いと思う。ただし、働いているご両親の場合のみで、それ以外のお子さんは預かされていない。子供が減ってきているなかで、国も保育所は「こども誰でも通園制度」（親が就労していなくても、子どもを保育所などに預けることができる新たな制度）が導入される予定。学童クラブもそのような流れが出てくる可能性がある。国の方針を待つだけでなく、村としても独自に考えていきたい。

代表的な質問

原発について。東海村の財政はどのくらい原発に依存しているのだろうか。原発がなくなったとき、東海村はどうなるのか？ 10年、20年、100年先に財政面、いまの行政サービスは保てるのか？

村長からの回答

電源交付金として国から年間15億円をもらっており、学校等をサポートする人の人件費や、建物の修繕費などに活用している。この交付金がなくなった場合、維持管理費や修繕費を削減・縮小する上、皆さんの税金を代わりに充てることになる。

また、原発がなくなれば雇用の問題もある。原発関連の多くの勤務先がなくなり、新たな勤務先に村から通えなければ、村の人口減少も拍車がかかる。そのため、1つの大きな産業や企業に依存することは危うい。働く場所がなくなったとしてもベッドタウンとしての街づくりもありえるが、原発がなくなった時の雇用の影響を考えるなど課題は多いと思う。

代表的な質問

年代別のアプローチについて。コロナを経て、地域の関わりが希薄化したという意見もある。成人式に参加しても、その後また村外に出ていってしまい村には戻ってこないことで人が減ってしまう。仕方ないことでもあるが、30歳、40歳等節目の際に再度集まれるようなイベントがあるといいのでは？

村長からの回答

村では、立志式（中学2年生）と成人式（はたちの集い）をやっている。成人式では、今年は400名近い対象者のうち7割程度が参加した。思い出話ができる機会として大事な場だと感じている。他の自治体では30歳、40歳などのタイミングで集まる機会を提供しているケースもあり、いいなと感じている。家庭を持つと、周りの人と集まる機会は自然発生的には少なくなる。そのような場を行政が仕掛けることも大切だと思っている。30、40代のイベントは、成人式の実行委員をフォローすることで出来るのではないか。同じ子育て世帯の悩みを共有したり、村に対する要求もしやすくなると思うので、考えていきたい。

代表的な質問

子育てが終わった人々が東海村に住む理由や生活の中の楽しみについて。仕事に行き、寝に帰るとい生活を一繰り返すだけでは、村にいる意味がなくなってしまう。そのような世代は、村からの支援もないので、村にいたいと感じられるようにするにはどうしたらいいか？

村長からの回答

東海村は「街の住みこちランキング」で上位となっている。病院、買い物場など、生活に必要な利便性は整っているが、誰かと触れ合える機会や余暇を楽しめるようなものは少ないと感じている。

昔は地域で文化・スポーツが盛んだった。昔の人は遊ぶ時は遊び、みんなで共有してきたが、今は個人で楽しみを共有するようになっている。東海村の景観は素晴らしいが、体験できる機会が減っているのではないかと思う。新しくできる神楽沢近隣公園では、単なる「散策」だけでなく、皆で楽しめるイベントをやる等、色々な人がほっとできるような空間を作りたい。

代表的な質問

Wi-Fiの設置について。公衆電話が無くなってきていて、その代わりとして。また防災面でも活用できるような公的なものとして。防災無線としても活用できるようなもの。耳だけでなく、目でも確認できるようなタブレット端末を配布するようなことは可能か？

また、東海村独自のアプリが以前はあったが再開はないか？いまの公式ラインは情報量が多く、確認しにくい面はある。

村長からの回答

「公共施設」については、今後、全ての施設で整えていく。問題は「公共空間」であるが、商売をやっている人がやるのか、それとも村がやるのかが課題だ。また、タブレット端末の配布については、すぐに対応することは難しいが、可能性を探っていきたい。

アプリ（こちら東海村）については、使用料が高いため、LINE（無料）に切り替えた。LINEの方が登録者が増えたので、それでよかったと認識している。私も「ごみの収集日のお知らせだけは（復活させてほしい）」と言われているので、今後どうするかもう少し考えさせてほしい。

代表的な質問

必要な人に情報が届くにはどうすればいいのか？行政からの情報発信も大事だが、SNSが良いという人もいれば、掲示物などから情報を得る人もいる。災害・教育・育児などの情報を得るためには、行政からの情報発信だけでは限界もある。団体や企業と連携し、集える場所を用意するとか、毎月イベントを行うなどの取り組みも、今後あったらよい。

村長からの回答

役場としては発信しているつもりだが、「住民側の欲しい情報」にアプローチしていくことも大切だと思う。村では、チャットボットもあるが、ピンポイントで情報が取れるように、検索性を上げていく仕組みも必要である。また、住民が自ら分かりやすく情報が得られるようにすることも必要である。今、「窓口DX」で、窓口を「総合窓口化」することを考えており、ICTツールを使いながら、何でも答えられるようにしたいと思っている。仕事のやり方も含めて変えていかないとならない。いずれにしても、簡単なアプローチで、ピンポイントに回答できるようにすることを考えている。もう少し時間をいただきたい

代表的な質問

災害発生時、要支援者なども、まずはコミセンに行き、福祉避難所に行く人とそうでない人に分けられると地域の話し合いの中で聞いた。高齢者は認知症の方もいるし、車いすの方もいるので、関わられる方がいないと対応が難しいのではないかと感じている。現在は、どのような考えになっているのか教えてもらいたい。

村長からの回答

大変大事なことを指摘してくれたと思う。村としては、第一義的にはコミセンが基幹避難所となっているが、車いすの方や高齢の歩行困難な方も他の人と一緒に避難するというのは和室だけでは難しいと思う。最初から福祉避難所の方がいいと思う。

まだ細かい振り分けのようなところが具体的に地域に降りていないと思うので、防災原子力安全課や地域福祉課と、どうやって具体的に地域につないでいくのかを団体や事業者から意見も伺いながら進めていきたい。スムーズな避難ができるよう、担当課にも話をしながら再度検討していきたい。

代表的な質問

気軽にふらっと立ち寄れる施設がほしい。
年代が関係なく、時間制限もなく、駐車場もあるような屋内施設があるといい。

村長からの回答

各世代が楽しめる拠点の必要性を感じている。コミセンがその役割だが、事前予約制の貸館なので、ふらっと行って自由に使う場所ではない。新たな箱物を作るのは、時代にそぐわないが、阿漕ヶ浦公園周辺で「面的整備」を考えているので、道の駅とまではいかなくとも、皆さんが集まれる場所を併設する等して整備していきたいと思う。

様々な施設が駅周辺に集まっているので、住んでいる近くにそのような場所づくりを考えていきたい。

国道6号拡幅でも、周辺が整備される時に、気軽に集えるスペースがつかれるといいと思っている。